

具体的な動作を表す名詞述語について

須田 義治

On the Nominal Predicate Expressing a Concrete Action

SUDA Yoshiharu

The nominal predicate expressing a concrete action functions as an explanation for another action in context, for example, as an explanation for a fact, reason, way of action, plan, instruction, intention, and so on. It has no temporal meaning and expresses an emotive-valuative meaning.

1. はじめに

文の名詞述語は、基本的に、「彼は学生だ。」のように、時間をきりすてた恒常的な質や特性を表すのだが、周辺の用法として、「さあ、出発だ。」のように、おもに動作名詞において、本来は動詞述語によって表されるところの（「出発しよう」「出発するぞ」など）、時間の中で展開する具体的な動作を表す。以下では、こうした用法にどのようなもの（下位タイプ）があるかを、その文脈的な条件とともに検討していく¹⁾。

¹⁾ 孟 (2017) は、この論文でとりあげるのとはほぼ同じ対象について、たくさんの用例を検討し、モダリティ（モーダルな意味）の観点から、統一的に、詳細に分析している。

ただし、述語が動作を表すと言っても、「わたしの特技はコーラの一気飲みです。」のように、時間的な展開の面を切り捨てた動作を表すものは、ここでの対象ではない。また、動詞の表すもので、具体的な時間のなかで生起するものを、物の変化なども含めて、ここでは「動作」と呼ぶ。

あらかじめ全体的なことをかんたんに述べておくと、以下に検討する名詞述語は、おもに説明的に機能しているのだが²⁾、否定形はとらず、過去形も基本的にとらない。また、漢語だけでなく、和語の名詞も少なくない。

2. 事実の説明

過去の動作を表す漢語動詞（いわゆるサ変動詞）が、「する（した）」をつけずに、さしだされることがある。以下の用例は小説からのものだが、これは、新聞の見出しや記事などによく見られるもので、テキストの問題とも重なる、あるタイプの文における用法と言えるだろう³⁾。また、この場合は、「だ」もつかないため、「する（した）」を省略し、動作を簡潔に表現しているものと考えられる。格支配（「～に」とのむすびつきなど）を見ても動詞性を残しているのである。

この用法には、はっきり分けられないとしても、シテイルのパーフェクトのように⁴⁾、過去の事実の記述や記録を簡潔に表現するもの（例 1, 2）と、中止形のように⁵⁾、あとの文に続いていく（従属する）ことを表すもの（例 3,

²⁾「説明」とは何かという説明が、ここでは、なされていない。以下に出てくるものでは、主語のさしだすものについて、その質や特性を述べるという説明と、先行する文のさしだす出来事に対して、ほかの出来事を関係づけるという説明の、大きく分ければ2種類の説明が考えられるが、厳密な規定は今後の課題である。

³⁾田中（2012）は、ニュース報道における名詞述語文を「見出し構文」と名づけ、くわしい分析を行い、「受け身として使われる」「過去形・否定形は使われない」「強い述べ立てを示す」「驚き・感慨を表す効果」などの特徴を指摘している。また、鈴木（2010）にも、同じ対象についてのくわしい分析が見られる。

⁴⁾ただし、シテイルのパーフェクトの場合は、他の動作への関係づけという機能があるが、この場合は、そのようなものは基本的でない。

⁵⁾次の例は中止形の例である。

ターゲットを確認、特別教室棟に入った。（有川浩・三匹のおっさん）

4) とがある⁶⁾。どちらの場合も、時間的な意味を積極的に表す必要がなくなっているものである。⁷⁾

- 1) 午前八時に先方宅に直行。(荻原浩・神様からひと言)
- 2) 小三文をくれないなら、いっそのこと手垢のつかない名前が良いと
いって、二代目草原亭白馬を襲名。初代白馬は、明治時代の嘶家で
三十一歳で狂死している。大天才だったという説もあるが、事実は
わからない。その名を継いで、自らの力で大きくきらびやかに開花
させた。(佐藤多佳子・しゃべれどもしゃべれども)
- 3) 後補を除去した像の殺虫処理をして全体をクリーニングし、合成樹
脂溶液を含侵させて木質を強化、さらに漆木屎と合成樹脂でこまか
な虫喰い穴や釘穴をひとつひとつ充填。作業をする手に木目が刻ま
れそうなほどの根気を要するこの穴埋めを終えた頃には、早くも玄
妙寺に来て二ヶ月がすぎ、早朝の前庭に霜が降りるようになってい
た。(森絵都・風に舞いあがるビニールシート)
- 4) 三号艇がスタートで出遅れた。続いて二号艇もターンで失速。
「ああ、まただよ」
篠崎がゴールを待たずに舟券を握りつぶした。
(荻原浩・神様からひと言)

⁶⁾ 安達（2017）には、この種の文について「この種の文は、形式的には句点によって独立した文となっているが、意味的には「聞き取りを実施し、～支援を始める」のように後続文との関係性が強い従属節に近いものとなっている。新聞記事は簡潔さを求められるため、複雑な文構造を回避する志向が強い。サ変動詞を述語とする動詞型述語文の場合、この語尾脱落によって、短めの文を連続させていくことから生まれる明晰性と意味的なまとまりから来る緊密性を手に入れる狙いがあるものと思われる。」(p.12) と述べられている。

⁷⁾ 次の例のように、未来の動作を表すものもある。

再婚。母親が再婚。

融は改めてその可能性について考えてみた。(恩田陸・夜のピクニック)

3. 理由などの説明

前後の文にさしだされる出来事に対して、その理由などの説明としてはたらく名詞述語がある。説明の機能は、名詞述語の基本的な機能だと言える。説明として機能しているのであれば、出来事を描写する文にくらべると、動作としての性格は弱くなっているだろう。また、感情的なニュアンスをともなうことも、名詞述語をとることと関係していると思われる（ただし、例6や例10は感情的なニュアンスがあまり感じられない）。

以下の例は、おもに複合名詞の形が使われている。そして、さししめず動作は過去のものも現在のものも未来のものもあるが、非過去形をとっており、テンス的な意味は背景にしりぞいていると言える。

以下、「6. 予定の説明」まで、基本的に、名詞述語には「だ」がつき、それがつかない場合は、いいさしの文か、多少舌足らずな印象の文になるだろう。

- 5) 失禁するほどのスタンガン責めだぞ、警察が来たら確実にノリにも所持品検査が入る。 (有川浩・三匹のおっさん)⁸⁾
- 6) 近所のスーパーを出たところで早苗は祐希と鉢合わせた。 交差点の信号待ちである。 (有川浩・三匹のおっさん)
- 7) なかなか用意周到だね。 鍵が替えられてる事態も想定してニッパ持参か。 (有川浩・三匹のおっさん)
- 8) 「船長がみずから魚釣りか。やれやれ呑気な船だ」と父があきれたように言った。 (池澤夏樹・南の島のティオ)
- 9) 「帰れ！もう店じまいだ」 (荻原浩・神様からひと言)⁹⁾
- 10) 「明日は出動だ、チワワ。今夜は早く寝るように」と多田は言った。 (三浦しおん・まほろ駅前多田便利軒)

⁸⁾ この例は、複合名詞の前要素が動作の手段を表しており、次に述べる、動作の様態を表すものにも近い。

⁹⁾ この例9と次の例10は、あとに述べる「予定」の意味も持つようである。

4. 様態の説明

次の例は、一つの単語の中の修飾的な要素（接頭辞など）が、話し手のとらえた現在の動作に対する、その様態の説明となっていて、動作を簡潔に規定している。多くは感情・評価的な意味もともない、話し言葉的（とくに俗語的）である。

- 11) 言いつつ重雄も缶ビールを開けて直呑みだ。

（有川浩・三匹のおっさん）

- 12) 再び体育館に美和子と戻ってくると、もう中は完全な静寂に包まれていた。

さすがに、みんなぴくりとも動かずに眠り込んでいる。あまりにも誰も身動きしないので、まるで死体がいっぱい転がっているみたいだ。

「おう、さすがにみんな爆睡」 （恩田陸・夜のピクニック）

- 13) 王子と清瀬は、台所でなにか話していたようだったが、やがてそれぞれの足音が自室に戻っていった。走の部屋の真上で、王子が歩く気配がする。

安普請の古い家屋なので、お互いの生活音は丸聞こえだ。目当ての漫画を探して、王子は自分の宝の山を掘り返しているらしい。

（三浦しおん・風が強く吹いている）

- 14) 祐希が席を抜けてくるまでの阿鼻叫喚は丸見えだったらしい。

（有川浩・三匹のおっさん）

次の例は、長い期間続く習慣的な動作などを表す述語が、その様態の面から、主語にさしだされる主体を特徴づけており、その主体についての説明となっている。これはもともと時間的な一般性が高いものであるが、動作の様態（動作に関わる手段や数量や場所など）のほうに表現の重点があることから、動作の時間的な側面は切り捨てられ、テンス・アスペクト的な意味を表さず、名詞述語が使われるようになっていいると考えられる。

- 15) 体の弱かった妻を遅い出産で亡くして、今はその忘れ形見である高校生の娘と二人暮らしだ。(有川浩・三匹のおっさん)
- 16) 早苗は自転車通学だ。(有川浩・三匹のおっさん)
- 17) マサヤは本店勤務。ひと昔前の MOF 担みたいな仕事をしているらしい。(荻原浩・神様からひと言)
- 18) 聞けば、いざとなったら裁判も厭わないと意気込んでいるその女性は宇都宮在住だという。(森絵都・風に舞いあがるビニールシート)

次の例は、一般的な時間外的な動作を表しているが、やはり、その動作の様態を説明するものだと言える。

- 19) この島ではみんなが早寝で早起きだ。十二時になると、町の中でも外でも起きている人は誰もいない。(池澤夏樹・南の島のティオ)
- 20) 「すごい！ストップウォッチで計るのかと思ってた」
「大きな記録会や大会では、いまはほとんど自動計測だと思う。参加人数も多いから」(三浦しおん・風が強く吹いている)
- 21) 顧問弁護士がいらないわけではないが、裁判になるとかえって金がかかるから、ユスられたら金で解決。それが珠川食品の体質だ。
(荻原浩・神様からひと言)

質問文に対してこたえる文に、名詞述語文が使われることもある。これも、どのような動作をしているか(するか)について説明するものと言える。疑問詞「なに」に対して名詞で答えているとも言えるが、この名詞は、人の日常的な活動を名づけるものである(そうでなければ、動詞でこたえなければならぬ)。

これは「様態の説明」というのとは少し異なるものと思われるが、何か動作をすることは分かっている、それがどんな動作かを聞いているので、様態を表すものとしておく。

22) 「ところであなたはなにしてんの?」

「……散歩だ」 (三浦しおん・まほろ駅前多田便利軒)

23) 「で、今日はいったい何をするの?」

机の上にはたくさんの本が並べられている。文学関係の本ばかりではないようだ。

「本の整理です」¹⁰⁾ (瀬尾まいこ・図書館の神様)

5. 意義づけの説明¹¹⁾

次の例は、一つの動作を、話し手の解釈や評価といった意義づけによって、ある側面から特徴づけるものである。まえの文に、その特徴づけられる動作がさしだされていれば、あとにつづく名詞述語でさしだされる動作は、その《言いかえ》とも言える。

規定語などの文の成分(あるいは規定的な従属節)がその意義づけを表しており、文が中心的に伝える情報は、動作そのものでなく、そちらの、その動作の側面にあるため、これは時間のなかで生起する動作の描写という性格が弱い。実際、動作を意義づける文の成分は連体形をとっており、名詞述語で表されるほうがより自然なものであると言えるだろう。

24) 飛び石を歩き、屋根付きの木戸を閉めたとたん、篠崎がまた息を吐き出す。今度ははばかることのない、深海から生還した潜水夫さながらの大きなため息だ。(荻原浩・神様からひと言)

25) よろしく、と祐希はまたおぎなりの会釈だ。(有川浩・三匹のおっさん)

次の例は、特徴づけられる動作が別の文にさしだされていないが、情報構造としては同様に、表現の重点が名詞述語の動作でなく、名詞述語を修飾す

¹⁰⁾ この例には「予定」の意味もあるようである。

¹¹⁾ これは、より動作性の低いものである。

る成分の表す、その動作に対する特徴づけにあるものである¹²⁾。

- 26) 一週間ぶりの帰宅だ。玄関で、薄い桜色の付けさげ小紋の女性と鉢合わせする。
(佐藤多佳子・しゃべれどもしゃべれども)
- 27) ジョータとジョージはともに歯を食いしばり、ゴールした。つづいてユキ、ムサ、ニコチャンと神童が八十位から九十位台に入った。キングが健闘し、百二十三番目にゴールだ。
(三浦しおん・風が強く吹いている)
- 28) 「もうすぐ製紙会社のかたがいらっしゃいますから、打ち合わせに同席してください」
こんな日にかぎって、社外のひとと打ち合わせ。
(三浦しおん・舟を編む)

次の例は、名詞述語が、定型化した活動を名づける一つの名詞の形で、ある特徴づけを持った動作を表している。しかし、動作そのものでなく、その特徴づけのほうに表現の重点があるため、動作の描写性が弱くなっている。

- 29) 「警察に行くんだよ。無銭飲食だ」(荻原浩・神様からひと言)
- 30) 隅の方にちょうどいいスペースを見つけ、リュックを並べて横になった。
なにしろ、枕も布団もない。本当に、ただ横になるだけの雑魚寝である。
(恩田陸・夜のピクニック)

6. 予定の説明

6-1. 予定の説明

次の例は、すでに決まっている予定が、名詞述語でさしだされている¹³⁾。

¹²⁾ 例 28 は感情・評価的な意味をともなっている。

これは、決まっている予定の説明を表しているので、時間的な一般化が進んでいると言える。そのため、動作自体は未来のことであるが、テンス・アスペクトが背景化し、非過去形の名詞述語が使われているのだろう¹⁴⁾。聞き手に対する予定の説明であれば、「のだ」がつくこともある（例33,34）。

- 31) 「午後イチで手術した患者さんが来るから、移ってもらったのよ。
行天さんは、予定どおり明日退院です。おめでとう」
（三浦しおん・まほろ駅前多田便利軒）
- 32) 「早坂さんも。お仕事ですか？」
「午後から出社ですよ」 （三浦しおん・まほろ駅前多田便利軒）
- 33) へっへー、あたしこれからカレシんちにお泊まりなんだー。
（有川浩・三匹のおっさん）
- 34) 「あー、俺、今日は一日、学校まわりなんだ」
柳さんが立ち上がる。郡部の学校のピアノを調律に行くらしい。
（宮下奈都・羊と鋼の森）
- 35) これから外まわりだという柳さんと分かれ、席に戻ったときに、不意に思いついた。
（宮下奈都・羊と鋼の森）
- 36) 午前一時で上がりでーす。 （有川浩・三匹のおっさん）
- 37) 夏休みもあと数日で終わりだ。
（佐藤多佳子・しゃべれどもしゃべれども）

次の例は、話し手が計画する予定の、一連の手順のうちの最初の動作（例38）や、予定の終了（例39）をさしだしている。

¹³⁾ 佐藤（2009）では、「単なる予定をさしだすばあい」の名詞述語の例が、いくつかあげられている（pp.228-229）。

¹⁴⁾ 次の例は、予定の《おもいだし》を表すものなので、過去形をとっている。
「時間が空いたのなら、一緒に来ますか」
耳を疑った。ホールだ。板鳥さんは今日はコンサートホールの調律だったはずだ。
（宮下奈都・羊と鋼の森）

- 38) 短期決戦でカタをつけよう。まずは小屋に仕掛けだ。
(有川浩・三匹のおっさん)
- 39) 仕事は順調に進んでいるようだった。もう一日で作戦終了とアサコ
さんは言った。
(池澤夏樹・南の島のティオ)

6-2. 予定の変更

6-2-1. 状況による予定の変更

予定の変更のように、新たな状況において、その実現が予想される動作を、名詞述語が表す場合もある。この状況においては、こうしなければならない、こうなる可能性があるという必然性や可能性の判断を表しているとも言える。そのため、名詞述語が使われているのだろう。

- 40) となると、明日から夜回りの時間は変更だな。
(有川浩・三匹のおっさん)
- 41) 「アパートの契約金に、って渡された金、全部麻雀に使っちゃって。
来月分の生活費が振り込まれるまでは、しょうがないから大学で野
宿です」
(三浦しおん・風が強く吹いている)
- 42) 明日からバイト探し。
(荻原浩・神様からひと言)
- 43) 国道の先で、また田舎道に戻るのは地図を見て覚えていたので、早
く通過しようと二人とも心持ち早足になった。
ぼちぼちスタミナ切れかな。
ランナーズ・ハイも終わりかかっているらしい。部活動を引退して
時間が経っているし、持久力の限界に近いのは確かだった。
(恩田陸・夜のピクニック)

次の例は、時間的な状況によって、動作が条件づけられているものである。これは、あらかじめ予定されていたものの実現であり、イベントの重要な節目を表すものでもある。

- 44) 「じき出発じゃねえかよ」
むろん、朝食などない。これから最後の点呼を取り、四時半過ぎにはここを出発するのだ。（恩田陸・夜のピクニック）
- 45) まもなく開演です、と係の声が出て、ロビーにいた人たちが一斉にフロアになだれ込んできた。（宮下奈都・羊と鋼の森）
- 46) ゴール地点近くの大きな掲示板に、見物客や選手たちが集まりはじめている。
「そろそろ発表だな」（三浦しおん・風が強く吹いている）¹⁵⁾

6-2-2. 条件にもとづく新たな事態

以上のようなものに対して、次の例は、ある条件のもとで起こってくる事態を表している。これは、ある仮定のもとでの必然的な帰結を名詞述語が表すものであるが、条件づけられて生じてくる動作は、話し手の望んでいない大変な事態を表していることが多く、感情・評価的な判断を表すとも言える。そのため、名詞述語になっているのだろう。また、その感情・評価的な意味とも関連しているのだが、受け身的な意味を持つ動作が多いようである。

- 47) 下手すれば、俺たち三人ともクビだ。（荻原浩・神様からひと言）
- 48) 「おい、うまくしゃべったら、怒られるぜ」
兄さんの言葉に、俺は口だけハハハと笑った。
「破門ですかね」（佐藤多佳子・しゃべれどもしゃべれども）
- 49) 「捻挫したらしい」
靴を脱いで草の上に両足を伸ばす。まっすぐ足を伸ばすと痛くない。ただ、足首を回そうとすると、痺れるような凄まじい痛みが走る。完全に捻挫だ。

¹⁵⁾ この名詞述語は受け身的な意味を表している。

「やばいなあ。マジで救護バス行きかもしれない」

そう口に出すと、このアクシデントの意味がずしりと胸に迫った。

(恩田陸・夜のピクニック)¹⁶⁾

- 50) いや、それ以前にこのことが松浦に知れたら、間違いなしに半殺した。自分の足で下山できないほどにしばかれる。

(森絵都・風に舞いあがるビニールシート)

- 51) 制服でそんなもん頼むほど度胸ねえよ！即通報じゃねーか！

(有川浩・三匹のおっさん)

- 52) たぶん化石のように頭の固い珠川食品の上層部に知れたら大騒ぎだ。

(荻原浩・神様からひとと言)

- 53) 「たぶん無理だね。信号のところでまず引っ張られるし、道がくねくね曲がったりしたらそこで転倒者続出。足の速いところと遅いところでも紐が引っ張られる」

(恩田陸・夜のピクニック)

- 54) 不愉快そうに睨み返されたらこちらが退散だ、疾しいものが睨み返してきたりはしない。

(有川浩・三匹のおっさん)

7. 指示や意向などの説明 (モダリティ)¹⁷⁾

7-1. 指示 (聞き手の動作)

次の例は、聞き手に対する手順の説明のようなものであるが、形式名詞を使った「すること。」などの表現に似た、命令的な指示を表している。動作を表す漢語名詞で、聞き手に対する簡潔な注意を表しており、これは注意書き(「猛犬注意」など)にも通じるものと言える。つまり、権威を持つ上の

¹⁶⁾ 「～行き」(「刑務所行き」「病院行き」など)は感情・評価的な意味を持つ複合語である。

¹⁷⁾ 佐藤(2009)では、「動作性名詞が使用される名詞文は、文の部分のはしりというより、動詞形態素のはしりであるばあいがある(出発する→出発だ)。名詞文でありながら、これらの文が、動作主体の人称に応じて、しばしば、《命令》、《意志》、《さそいかけ》を表現するのは、これらの文の背景に、はしょられた動詞文があるからである。これらは、本質的には動詞述語文である。」(p.228)と説明されている。

ものから、管理・指導される下のものへの一方的な指示である。また、これは、念押しを表す「な」や「ね」をともなうことがある。

- 55) 「ああ、ご苦労さん。あとは報告書にして提出な」
（荻原浩・神様からひと言）
- 56) 通されたらちゃんと正座な。
（荻原浩・神様からひと言）
- 57) 小さなミスに注意。後で取り返しがつかなくなる。
（荻原浩・神様からひと言）

「約束」という名詞は、文の述語になって、聞き手に対する話し手の依頼・お願いを表す。これも、「な」や「ね」をともない、念押しや懇願を表す。

- 58) 絶対！絶対約束ね!?
（有川浩・三匹のおっさん）
- 59) 「とにかく、内緒ね。約束だぞ」
忍は念を押しした。
（恩田陸・夜のピクニック）

「起立！礼！着席！」「注目！」「黙とう！」などのような号令を表す例もある。これも上から下への命令や指示の一種だが、「だ」がつかず、独立語文的に使われる場合も多い。

- 60) 翌日の月曜日、朝の九時に目を覚ますと電話が鳴った。座ったまま手を伸ばし、受話器を取ると、「北村、集合だ、集合」鳥井の声が飛び込んできた。
（伊坂幸太郎・砂漠）
- 61) 「明日から、本格的な練習に入る。いまは五キロ走るのが精一杯だろうけれど、これから絶対に、距離がのびてタイムは縮んでいくから、安心してついてきてほしい。以上、解散！あ、もちろんアオタケまで走って帰ること」
（三浦しおん・風が強く吹いている）

次の例は、組織などの決定の報告や告知である。

- 62) 佐倉涼平 九月十二日付けで総務部お客様相談室へ異動。
(荻原浩・神様からひと言)

7-2. 意向など（話し手の動作）

聞き手に許可や確認をとることが必要な話し手の動作を名詞述語が表すことがある。ふつうは、上から下への一方的な宣言や宣告であり、したがって、あまりていねいな表現ではない。また、一語文的な性格も強い。

- 63) いったい、西嶋は何がやりたいのか。僕はさすがに問い質そうとしたのだけれど、その時に彼が立ち上がった。「ちょっと休憩。トイレ借りますよ、鳥井」
(伊坂幸太郎・砂漠)
- 64) 僕、外出ね。
(荻原浩・神様からひと言)
- 65) 公務執行妨害だぞ、逮捕だ！
(有川浩・三匹のおっさん)

次の例は、具体的な動作ではないが、話し手の態度的な判断を表すフォーマティヴな発話であるため、一語文的な名詞述語文が使われるのだろう。

- 66) 「あ、ボウリングいいかも」長谷川さんの隣の女の子が甲高い声で、賛同した。すると間髪入れずに、他の二人も、「やろ、ボウリング、やろうよ」と続ける。まるで国会で、誰かが提出した緊急動議に対して、根回しを受けていた同志たちが一斉に、「賛成！賛成」と立ち上がるかのような流れの良さを感じた。
(伊坂幸太郎・砂漠)
- 67) 「つまらない？そういう私情を文学に挟むのはよくないですよ。『ころ』は名作です」
「じゃ前言撤回。『ころ』っていうの、授業でするには長すぎるの。

だから教材を替えたいんだ」（瀬尾まいこ・図書館の神様）

- 68) それより佐倉君、つまらんクレームに袋麺パックを四つも送るのはどうだろうな。却下だ。（荻原浩・神様からひと言）

次の例は、仕事・作業上の伝達における了承や確認を表す独立語文相当のものであり、返答などの簡潔さのために名詞述語文が使われるのだろう。応答「はい」「いいえ」などの感動詞に近いものである。動作自体はパーフェクト的な意味を持つと言える。

- 69) 「金銭謝罪になるから。佐倉君にも同行してもらおう。いいかい」「了解」（荻原浩・神様からひと言）

- 70) その日の僕は、ニコマ目からの民法の講義を受ける予定だったので、午前九時半には学校に到着し、駐輪場で自転車の鍵を締めていた。その時に、「北村、発見!」という声が聞こえた。リュックサックを外し、振り返ると、鳥井が立っている。（伊坂幸太郎・砂漠）

次の例は確定や決定、あるいは、その確認を表し、ムード的なものと言える。¹⁸⁾

- 71) 「それでいいんじゃない」

「それでは方針はきまりですね。それで、部長は僕でいいでしょうか?」（瀬尾まいこ・図書館の神様）

- 72) 「明日の木村さん、キャンセル」

キャンセル? 嫌な予感がした。（宮下奈都・羊と鋼の森）

¹⁸⁾ 査読者から、「おさえこみ!」（柔道）のような例をどのように位置づけるかという指摘を受けたが、本稿のなかのどこかに位置づけるとなると、このあたりになるだろうか。しかし、試合の判定ということで、例 66-68 のようなパフォーマンスな発話という性質もあるようである。

73) 二月ももう終わりか。 (三浦しおん・舟を編む)

起こってくる動作についての当為的な判断を表すもの(例74)や、推量などの認識的なもの(例75)を表すものもある。

74) 売りだね。十万株ぐらいでいいよ。 (荻原浩・神様からひと言)

75) 涼平は想像してみた。もしかして社長の腹心として大出世か?
(荻原浩・神様からひと言)

次の例は同様の意味が語構成によって表されている。

76) となると、生徒が退けはじめる日暮れから警備システムが入るまで
が要警戒か。 (有川浩・三匹のおっさん)

77) 「掲示板。2ちゃんねる。サラリーマンは必見ですよ」
(荻原浩・神様からひと言)

8. 段階の説明(アスペクト)

以下の例は、名詞の語構成によって、動作のさまざまな時間的な段階を説明的に表している。

78) 清一が須田に昼間問い質したことはすでに本社の確認済みだ。
(有川浩・三匹のおっさん)

79) どう見ても、倒産寸前にしか見えないな。
(荻原浩・神様からひと言)

80) 標的は小屋の金網を破り、ヒナを一羽奪取して特別教室棟の方面へ
グラウンドを移動中。
(有川浩・三匹のおっさん)

9. 関連する動作のほのめかし

以上のものとは少し異なるが、次の例は、「電話」「手紙」「おみやげ」など、コミュニケーションの手段となるようなものをさししめす名詞が、動詞をとまわずに、さしだされている。基本的に、それらに対して聞き手の注意をひきつける発話であるが、それに関わる、聞き手の動作の要求や、話し手の動作への意志などがほのめかされることが多い。たとえば、「電話だ」は「電話がかかってきたから、電話に出て。」をほのめかし、「おみやげだ」は「あなたにおみやげをあげます。」をほのめかす。例82のように、に格の名詞とむすびつくという点でも、動詞的な性格も持っていることが分かる。これらは、主語なし文であるが、いわゆる「うなぎ文」の一種と言えるだろう。¹⁹⁾

81) ほうい、おみやげ。由里ちゃんにはチョコレート。

（荻原浩・神様からひと言）

82) 「……佐倉君……君に電話だ」

（荻原浩・神様からひと言）

83) 棚の整頓具合を再確認する男に向かい、女性社員が声を張りあげた。

「まじめさーん、お客さまです」

（三浦しおん・舟を編む）

次の例は、名詞がさししめすものを補う動作をほのめかし、名詞のさししめすものは、その理由や目的となる。たとえば、「ランチだ」は「ランチを食べに行く」をほのめかすことになる。この場合は、主語がつくことがある。

¹⁹⁾ 佐藤（2009）は、この種の文について、「[手紙][郵便][電話][ニュース]のような情報活動の媒体や所産をさししめす名詞をもちいた、つぎの文は、それぞれ、「[手紙・郵便]がとどいている」「[電話]がはいっている」「[ニュース]がある（あるいは、～をもっている）」などを省略し、はしょったうえで、体言ではすわりのわるい文末に「だ」をくっつけて陳述の表示とした文であろう。だが、もはや、このいいまわしは熟していて、省略やはしょりであるとの印象はうすれている。これらの文をもちいるときはなし手ときき手の目のまえに指示対象が現存する必要は、かならずしもない。はなし手は、きき手に、そのしらせに対応して、なんらかの行為をおこすことを期待している。」と説明している（p.236）。

- 84) 僕はランチだ。仕事がらみだから、少し遅くなるよ。
(荻原浩・神様からひと言)
- 85) 「土、日は休めるんだろ」
——とんでもない。ゴルフだよ。お得意さんと。
(荻原浩・神様からひと言)

「会社」「学校」「トイレ」のように、特定の活動とむすびついた場所であれば、名詞述語で、その活動に従事していることを表す。あるいは、単なる場所を表す名詞であれば、活動を表すで格の名詞とむすびついて、その場所で、その活動に従事していることを表すこともある（例 88）。

- 86) 「あ、篠崎さん、朝からトイレです」 (荻原浩・神様からひと言)
- 87) 明日も会社だが、とても眠る気になれない。
(三浦しおん・舟を編む)
- 88) 「いや、まあ、たまにあることだし、気にすることもないよ。君もいやな代役を任されちゃったな。三村くん、夏休みだって？」
「はい、家族旅行でサイパンです。もどり次第、速攻でお詫びにうかがうはずです」 (森絵都・風に舞いあがるビニールシート)

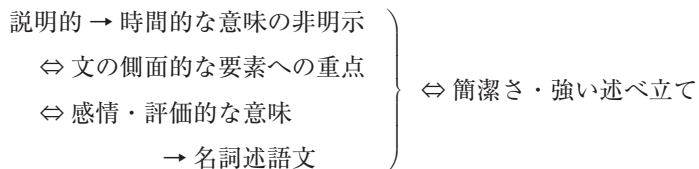
10. おわりに

以上に述べた名詞述語文の意味・機能の体系を略述すれば、次のようになるだろう。

動作の側面的な特徴を中心として、ただ事実を説明的に述べるというコンテキストにおいて、時間的な意味が背景にしりぞくことにより、動詞述語でなく、名詞述語が使われるようになる。また、その、動作の側面的な特徴の伝達は、話し手の感情・評価的な態度によっても動機づけられていて、それにより、感情・評価的な意味を表す名詞述語文という形をとっているとも言える。そして、名詞述語の使用は表現の簡潔さや強い述べ立てにもつながっ

ていく。

これらを図式的にまとめれば、次のようになる。



本稿は、文の中で動作が名詞によってどのように表されているか、なぜ動作が名詞によって表されるのかという研究の一部であるが、このあとは、文の述語以外の成分に、動作を表す名詞が使われる場合についての検討が続くことになるだろう。

《参考文献》

- 安達太郎（2017）「スタイルから見た新聞記事の名詞型述語文」『現代日本語研究』9, 8-22
- 久保田一允（2018）「出来事の発生を表す名詞述語文」『愛知淑徳大学論集—文学部—第43号』129-148
- 黄允實（2016）「「山田先生は優しい人だ」構文に関する一考察—「山田先生は優しい」構文と比較しながら—」『日本研究教育年報20』東京外国語大学, 1-18
- 黄允實（2017）「「形容詞＋名詞」述語文と形容詞述語文—主語名詞の表わす事物の「特性」の恒常性と一時性—」『日本研究教育年報21』東京外国語大学, 1-18
- 佐藤里美（1997）「名詞述語文の意味的なタイプ—主語が人名詞のばあい—」『ことばの科学8』むぎ書房, 151-212
- 佐藤里美（1998）「名詞述語としての「することだ」」『日本東洋文化論集（4）』琉球大学, 1-56
- 佐藤里美（2001）「テキストにおける名詞述語文の機能」『ことばの科学10』むぎ書房, 67-116

- 佐藤里美 (2009) 「一語文的な名詞文の意味・機能」『日本東洋文化論集 (15)』琉球大学, 211-241
- 新屋映子 (2014) 『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房
- 鈴木智美 (2010) 「ニュース報道における「{動名詞 (VN) / 名詞 (N)} + です」文について—「現地を緊急取材です」「老舗料亭に問題発覚です」—」『留学生日本語教育センター論集 36』東京外国語大学, 57-70
- 鈴木智美 (2012) 「ニュース報道およびブログ等に見られる「～です」文の意味・機能—「～を徹底取材です」「～に期待です」「～をよろしくです」—」『東京外国語大学論集第 84 号』, 341-357
- 田中伊式 (2012) 「ニュース報道における「名詞 + です」表現について～「イチロー選手が電撃移籍です」「尖閣列島で新たな動きです」～」『放送研究と調査』NHK, 16-29
- 孟令禪 (2017) 「運動名詞述語文のモーダルな意味について」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要第 44 号』, 137-156
- Е. Э. Пчелинцева (2016) От глагола к имени: Аспектуальность в русских, украинских и польских именах действия, Санкт-Петербург

【付記】 本稿は 2015 年 10 月 19 日に語学教育研究所の研究会で発表したものを書き直したものです。研究会では先生方から有益なご指摘をいただきました。

また、投稿まえには、東京外国語大学の早津恵美子先生と幸松英恵先生に、原稿をご覧いただき、多くの貴重なご教示をいただきました。その際、幸松先生から、動詞述語との比較対照が必要ではないかというご指摘をいただきましたが、今回は、名詞述語の個々の用法の確認までしかできませんでした。今後の課題といたしたいと思います。